2019 年度

岐阜県青少年赤十字
研究推進事業活動事例集

（1）　恵那市立武並小学校

学　　校　　名	恵那市立武並小学校　（校長　長谷川　満）
活動の種類･単位	防災教育について、全校児童と保護者・地域が連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間（３～６年生）、生活科（１～２年生）

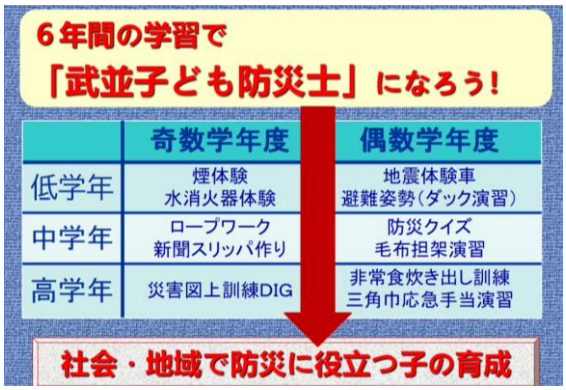
1　活動テーマ

「自分の命は自分で守る」心と態度を育てる防災教育

2　主な活動内容

（1）６年間の系統性をふまえた武並小学校防災スクールの実施

本校では、小学校１年生から６年生までの６年間で、「自分の命は自分で守る」心と態度を育てることができるように、防災学習を児童の実態に応じて系統的に位置付け実践している（右表参照）。



【武並小学校防災スクール系統図】

低学年では、火災発生時の煙の広がりの様子を動画で見た後、実際に訓練用ガスを充満させた教室内を移動する体験をした。火災発生時の一酸化炭素等の有毒ガスを吸わないようにハンカチ等で口を覆うとよいこと、有毒ガスを吸わないようにできるだけ低い姿勢で非難することなどを煙体験で学んだ。地震体験車では、実際に規模の大きな地震の揺れを体験し、地震の怖さや大きな揺れの中で身を守るために机の下に避難すること、机の脚をしっかりと持って地震がおさまるのを待つことなどを学んだ。

中学年では、災害にあったときの対処方法を学んだ。まず、避難所生活の様子を防災アプリで調べ、避難所生活で地域の人の助けとなれるよう、ロープの縛り方などを学んだり、毛布を利用した担架の作成・搬送方法を学んだりした。

高学年では、ハイゼックスを利用した非常食の炊き出しを行ったり、けが人が出たときに手当てができるよう三角巾の応急処置の方法を学んだりした。さらに、登下校時や家庭・地域での災害に備え、地域の危険箇所の写真をもとに児童が身の回りの危険箇所を把握した。その危険箇所を盛り込んだ災害図上訓練（DIG 訓練）を通して、地域で災害が発生した際に自分の命や地域の人の命を守ることができるように避難の方法等について学習した。

これらを６年間で系統的に学習することで、災害が起きた際に被害を軽減する方法や、災害時に「自分の命を守る（自助）」方法、災害に遭遇した際に地域の人と助け合って被害を最小限にしたり、避難所で困っている人を助け周りの人と協力して生活できるようにする（共助）ための方法を学んだりした。そして、６年間の防災学習を修了する卒業時には、６年生全員が恵那市防災研究会から「武並子ども防災士」の認定証を受賞し、全校の前で「防災士宣言」を行った。

これらの防災学習は、恵那市防災研究会の他、恵那市武並町消防団、恵那市危機管理課の指導・協力を得て実施している。防災に関する様々な器具等は恵那市危機管理課はじめ恵那市武並町消防団、防災研究会から借りて実施した。

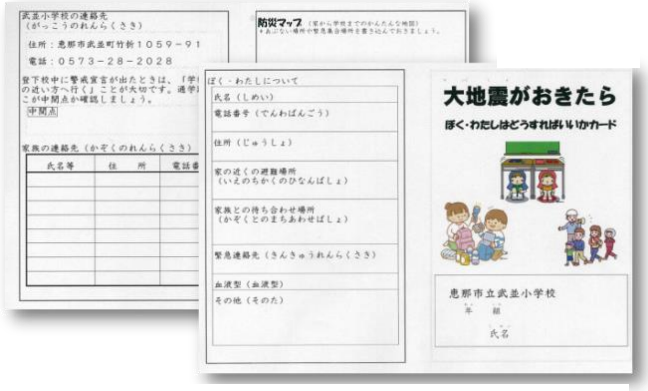
さらに、恵那市内一斉防災の日【令和元年９月１日（日）】には、本校児童（１７４名）の他、地域の中学生、保護者、地域住民総勢約２７０名が参加し、武並小学校で「総合防災訓練」を実施した。はじめの会で、訓練のねらいや活動の流れ等を確認した後、全１５種類のブースに分かれ防災訓練を体験した。小学生・中学生・保護者・地域住民らがグループ（全１６グループ）ごとにブースを移動し訓練を行った。中学生がグループリーダーとなり、小学生に教えたり保護者・地域住民に声をかけたりしながら各種の防災訓練を行った。

【武並小中総合防災訓練の様子】

【武並小中総合防災訓練（令和元年９月１日）の内容】
①簡易トイレ組立体験　②簡易テント組立体験　③非常食炊出し体験　④消防車放水体験
⑤消火器放水体験　⑥飲み水づくり体験　⑦AED 体験　⑧人工呼吸体験　⑨毛布担架体験
⑩新聞スリッパ体験　⑪怪我の手当て体験　⑫お年寄り疑似体験　⑬搬送法体験
⑭簡易ベッドづくり体験　⑮煙体験

（２）家庭・地域防災会議の実施

４月の授業参観日に、地区ごとに分かれ自治会長（または支部長）がリードして「家庭・地域防災会議」を行った。「登校途中に地震が起きたらどうするか」「休日に地域の公園で遊んでいるときに災害が発生したらどうするか」などの想定のもと、家族で話し合って「大地震が起きたら　ぼくわたしはどうすればいいかカード」に書き込んだ。「この付近までなら家に引き返したほうがよい」や「もうここまで来ていたら学校に向かったほうがよい」「子ども１１０番の家があるからそこに避難させてもらおう」などと、非常災害時の行動を家族で一緒になって考えた。カードは災害発生時にいつでも見られるようにランドセルの中に常に入れている。



【大地震がおきたら　ぼく・わたしはどうすればいいかカード】

【家庭・地域防災会議の様子】

３「まもるいのち　ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

（1）公開した学級等

学年	学級数	児童生徒数	主な参観対象者（約　名）
全校	６	１７４名	教職員（４名）

「地震災害」（小学生１－３年生用）（４－６年生用）のＤＶＤを視聴した後、ワークシート１・２を使って「地震から身を守る方法」「緊急地震速報で身を守る方法」を学んだ。

(2)児童・生徒、授業者、参観された方の感想等

（児　童）ＤＶＤを見て、大きな地震がくると建物が壊れたり、地面がゆがんだりして人が死んでしまうこともあるからとても怖いと思った。地震は突然やってくるので、緊急地震速報が流れたり揺れを感じたりしたら机の下にもぐって揺れがおさまるまで待つことが大切だと分かった。

（授業者）ＤＶＤには、地震の様子や大きな地震が発生したらどうなるかが視覚的に示してあり、児童が理解しやすかった。映像から恐怖を感じる児童がいることも予想できたため、視聴する前に怖かったら目を伏せてもよいことを伝えてから映像を見た。付録のワークシートに取り組むことで、学習した内容を理解できたか確かめることができてた。

４　事業の成果、効果等

○市内一斉防災の日(９月１日)に児童生徒の他、保護者や地域住民、消防団等を交え武並町全体で総合防災訓練を実施したことにより、地域全体の防災・防犯に対する危機意識が高まり、防災・防犯に強い武並町の町づくりに貢献できた。

○武並小学校での防災に関する実践を、県内・市内の各場で発表したことにより、他校でも防災・防犯に対する意識が高まり、自校に取り入れようとする動きがみられるなど本校の実践を広めることができた。

（2）　岐阜市立東長良中学校

学　　校　　名	岐阜市立東長良中学校　（校長：上田　貴之）
活動の種類･単位	１年生　防災教育
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

岐阜県青少年赤十字「防災教育推進校」活動報告書

1　活動テーマ

地域と歩む「防災の街」東長良

2　主な活動内容

(1)宿泊体験学習　＜日時＞ 4月23日(火)･24日(水)

①災害時の非常食作り

アルファ米を活用して，カレーライスを作った。アルファ米の炊飯は，段ボールとビニールを使って，そこに水を加えるだけでできあがるという非常に簡単な作業であり，どのグループもおいしく作ることができた。

②防災学習

長良水防団の方を講師として招き，５月に行われる岐阜市水防連合演習に向けて，長良地区の水害の被害や災害時に中学生が必要とされる活動内容や役割を知ることができた。また，ロープワークを行い，防災に対する意欲と態度を育むことができた。

(2)水防団事前演習･岐阜市水防連合演習　＜日時＞ 5月9日(木)･5月26日(土)

岐阜市水防連合演習では，実際に土嚢袋を作って並べたり，杭を打って高さを合わせたりするなど，自分たちの住む長良地区を水害から守る方法を身に付けることができた。

(3)命を守る訓練　＜日時＞ 9月2日(月)

講師：岐阜大学地域減災研究センター特任准教授　村岡治道　先生

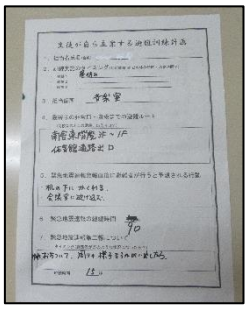
地震が起きた時，自分の命を守るために適切な対応ができていたか，ご指導・ご助言をしていただいた。

実際に地震などの災害が起きて避難をするときは，声を出して指示を伝え合うことや，前後左右の人との間隔を空けて避難をすることなどを学ぶことができた。

(4)DIG訓練　＜日時＞ 12月12日(木)

講師：岐阜大学地域減災研究センター特任准教授　村岡治道　先生

校舎内（自教室，特別教室，廊下）における災害が起きた時の被災状況を考察して，どんな所にどんな危険が潜んでいるかについて具体的に考えた。また,「生徒自らが考える避難訓練シナリオ」を作成することで，休み時間中に起きるかもしれない，移動教室をしている時に起きるかもしれない，特別教室にいる時に起きるかもしれないなど，色々な状況を想定しながら，自分の命を守るための行動について学ぶことができた。



3「まもるいのち　ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

(1)公開・実施した学級

授業内容：「災害の経験から未来へ」

学年	学級数	児童生徒数	主な参観対象者
1	1	３３名	教職員

授業内容：「災害に備える」

学年	学級数	児童生徒数
1	1	３４名

(2)児童・生徒，授業者，参観された方の感想等

＜生徒の感想より一部抜粋＞

・中学生の自分なら，小さい子のお世話やお年寄りの方の相談・サポートなど，人との関わりをもつことができる。それ以外にも，物を運ぶなどの手伝いをすることができる。地域に広く貢献することができると分かった。

・自分としてできることは，雑巾作りや募金活動など数えきれないほどある。その全てをやりきれるかは分からないが，できる限り最善を尽くして行動したい。

・自分事として捉える。地震はいつ起こるか分からない。だからこそ，事前に考えておくことが必要だと思う。また，大切なものを失うかもしれないし，あまり大切ではないと思っていなかったものが改めて思うと，とても大切なものであったと気付くかもしれない。家族や周りの仲間，大人の人たちに感謝の気持ちをもって生活していきたい。

4 事業の成果，効果等

・ＤＩＧ訓練では，岐阜大学地域減災研究センター特任准教授の村岡治道先生から，ご指導やご助言をしていただきながら，グループごとに学習を進めた。具体的な生活場面をイメージした視点で考えることができ，多様な避難の方法を考えることができた。

・「まもるいのち　ひろめるぼうさい」は映像やワークシートをそのまま授業で活用できるため，授業者として大変扱いやすいと感じた。また，学習内容が教科の学習と関連付いており，教科横断的な視点で指導することができた。生徒の防災意識を高める手段としてとても有効である。今後は，計画的かつ継続的に活用できるようにしたい。